

## 島根県邑南町

### 体験内容（受入レポートから）

祭りへの参加  
産直市での販売体験  
農業体験（草刈り・草寄せ・稲刈り）  
小学校 教育旅行手伝い  
邑南町活性プロジェクト会議への参加

### 報告者

市町村 : 小笠原美穂子（定住企画課商工観光室）  
体験調査員：北尾 ゆり子（同志社大学）  
                  白枝 悠太（大阪大学大学院）  
                  杉本 陽一（立教大学）  
                  山岸 夕花（大阪大学大学院）

# 平成 21 年度 国土交通省 若者の地方体験交流事業 地域づくりインターン 受入レポート

おおなんちょう  
島根県邑智郡邑南町

邑南町役場定住企画課商工観光室  
担当者 小笠原美穂子

## 受入地域名及び地域の概要



邑南町は中国山地の中山間地域で広島県との県境に位置し、平成 16 年 10 月 1 日に羽須美村、石見町、瑞穂町の 3 町村の合併により誕生しました。農業を基盤産業とする町で、総面積 419.2 km<sup>2</sup>、人口 12,383 人、高齢化率 39.8% と高齢者の多い町です。

本町は中国地方最大の江の川の源流に位置し、豊富な森林やゲンジボタルやオオサンショウウオなどの希少種が生息する清流等、豊かな自然環境に恵まれています。それを守る環境と豊富な人材がいます。交通網も整備されており、町域の西南部に浜田自動車道瑞穂インターを有し、広島市内から 1 時間圏内に位置することから、山陰・山陽の結節点としての役割を担っています。

## 受入組織

担当課 邑南町役場 定住企画課  
受入組織 邑南町田舎ツーリズム推進研究会

## 受入者氏名

北尾ゆり子

同志社大学 3 回生

研究テーマ「ジャーナリズム・日本のメディアの報道姿勢」

受入期間 8 月 1 1 日(火) ~ 8 月 2 7 日(木) 1 7 日間

山岸夕花

大阪大学大学院 1 回生

研究テーマ「地域振興における知的財産の役割」

受入期間 8 月 1 1 日(火) ~ 9 月 1 日(火) 2 2 日間

杉本陽一

立教大学 3 回生

研究テーマ「中央アンデス先住民の農耕文化・小鹿田畑焼き 焼き物から見るワザの伝承と家の継承」

受入期間 8 月 1 1 日(火) ~ 9 月 1 日(火) 2 2 日間

白枝悠太

大阪大学大学院 1 回生

研究テーマ「発電に伴う環境・健康影響の外部性と地域特性を考慮した地域エネルギーシステム最適化の基礎的分析」

受入期間 8 月 1 1 日(火) ~ 9 月 1 日(火) 2 2 日間

## 受入の目的・ねらい

体験調査員には田舎の生活体験を通じ、地方の良さを見直し、邑南町の素晴らしさを PR してもらう。受入地域では、地域交流を図りながら、体験調査員からの提言により、地域活性化の足がかりにする。また、UIターンにつなげる。

邑南町田舎ツーリズム推進研究会においては、教育ツーリズムのモニターとして位置づけ、農家民泊、農家民宿を中心とした受入をする。

学生でつくる邑南町活性プロジェクトのメンバーとしてプロジェクトチームのあり方や検討、企画を考える。

## 受入内容

邑南町田舎ツーリズム推進研究会の会員を中心に、普段どおりの生活の中で、4人の調査員の研究テーマを織り込んだプログラムに基づき  
 小学生による教育体験旅行の手伝い  
 30年以上続いている地域の伝統のまつり「やまんばまつり」への参加・手伝い  
 邑南町田舎ツーリズム推進研究会を拠点とした田舎体験、農作業と地域交流

## スケジュール

日付	午前	午後	夜	宿泊場所
8月11日(火)		任命式	歓迎会	農家民宿 日高
8月12日(水)	香木の森 シックスブデューズ	オリエンテーション 断魚溪・郷土館・こて絵		農家民宿 日高
8月13日(木)	産直市みずほ販売	産直市みずほ販売		農家民宿 日高
8月14日(金)	やまんばまつり手伝い	やまんばまつり神事	やまんばまつり参加	農家民宿 小田
8月15日(土)	産直市みずほ販売	産直市みずほ販売		農家民宿 小田
8月16日(日)	産直市みずほ販売	産直市みずほ販売		農家民宿 小田
8月17日(月)	移動及び自由行動	垣崎醤油見学		ことぶき のぶしの宿 今ちゃんの家 うえざこ
8月18日(火)	羽須美地域農業体験	羽須美地域農業体験		ことぶき のぶしの宿 今ちゃんの家 うえざこ
8月19日(水)	羽須美地域農業体験	羽須美地域農業体験		ことぶき のぶしの宿 今ちゃんの家 うえざこ
8月20日(木)	移動及びふり返し会議	知夫小学校 受入準備		ツーリズムの宿 石橋
8月21日(金)	知夫小学校 教育旅行手伝い	知夫小学校 教育旅行手伝い		ツーリズムの宿 石橋
8月22日(土)	知夫小学校 教育旅行手伝い	知夫小学校 教育旅行手伝い		ツーリズムの宿 石橋
8月23日(日)	自由行動	自由行動		奥原
8月24日(月)	北尾ゆり子 報告会	学生でつくる邑南町活性 プロジェクト会議		奥原
8月25日(火)	ホームページ企画会議 エネルギー	ホームページ企画会議 交流会準備	役場若手職員との交流会	久喜林間学舎
8月26日(水)	移動	草刈り・草寄せ		農家民宿 にいや
8月27日(木)	稲刈り	稲刈り		農家民宿 にいや
8月28日(金)	こせがれネットワーク	こせがれネットワーク		奥原
8月29日(土)	自由行動	自由行動		奥原
8月30日(日)	研修報告会準備	研修報告会準備		農家民宿 土居ランド
8月31日(月)	研修報告会準備	杉本・白枝・山岸 報告会	送別会	農家民宿 土居ランド
9月1日(火)				

## 活動内容



体験調査員任命書の伝達と邑南町長との懇話



邑南の自然を満喫。県立自然公園断魚溪散策



地元の伝統のまつり「やまんばんまつり」への参加



産直市みずほでの販売体験



教育ツーリズムでの稲刈り体験の手伝い



石見神楽体験で神楽の衣装を着て記念撮影



学生でつくる邑南町活性プロジェクト会議



プロジェクト会議に集まった学生たち





邑南町で体験したことの体験調査報告会



邑南町長から「邑南町PR大使委嘱状」の授与

## 昨年との比較

プログラムは、昨年の受入で評判の良かったものに今年の行事等をからめたものとなりました。昨年は男性1名、女性3名であったが、今年は男性2名、女性2名としたので、全体のバランスはよくなりました。  
受入側も2年目ということもあり、スムーズに受け入れることができました。

## 反省点・気を遣った点

受入期間中は農林水産省の子ども農山漁村交流プロジェクトの受入と重なり、結果的には小学生の受入のスタッフとしてプログラムに取り込みましたが、どちらにも気を遣わなくてはならず、大変でした。2年目となると作業内容もう少しワーキングホリデーに近いものにしてもいいかなと思いました。

## 受入体制の成果・評価等

昨年に引き続き4名のインター生を受入しました。今年は男性2名、女性2名という組み合わせでした。年齢も21歳～25歳と幅広かったせいか、兄妹のような関わり合いで仲良くプログラムをこなし、毎日の体験の様子をブログリレーしてくれました。  
大学生たちは、受入先である「邑南町田舎ツーリズム推進研究会」の会員の皆さんからも孫のようによくしてもらい、受入側もすっかり大学生の受入に慣れてきました。  
また、「やまんばんまつり」では昨年に引き続き、今年も実行委員会の役員さんから信頼を得て、スタッフとして期待され、祭りを盛り上げてくれました。  
30名の地元住民を前に行った体験調査報告会では、様々な提言をしてくれました。  
その提言とは、次のとおりです。

- 大学サークル合宿の招致・自転車の貸し出し
- 観光案内の充実・地域産品を利用した商品開発
- ボランティアと地域通貨・長期ワーキングホリデー制度の充実
- 新エネルギーを利用した電動自転車のレンタサイクル・学生を媒体とした都市農村交流 など

学生からの提案の中には、すぐにでも実行に移せそうなものもありました。3週間での成果発表とは思えないくらい内容の充実した発表でした。

今年も報告会終了後、邑南町長から「邑南町PR大使」の委嘱を受けました。  
また、昨年立ち上がった「学生でつくる邑南町活性プロジェクト」のメンバーに全員が登録し、8月25日、全国にいるプロジェクトチームのメンバーと今後の活動について熱心に協議しました。  
今年のインターン生の受入期間中に昨年のインターン生が邑南町へ短期定住していたので、大学生たちを全面的にサポートしてくれました。  
今後、このプロジェクトチームを中心として、邑南町へ若い力が注がれるようになり、元気な地域へと展開していくと思います。

# 平成 21 年度 地域づくりインターン事業体験調査レポート

派遣地域：島根県邑智郡邑南町

派遣期間：平成 21 年 8 月 11 日（火）～8 月 28 日（金）＜18 日間＞

体験調査員：同志社大学社会学部メディア学科 3 年 北尾ゆり子

## 1、派遣地域概要

邑南町は、平成 16 年 10 月 1 日に羽須美村、瑞穂町、石見町の 3 町村が合併して新たに誕生した。

島根県中南部の東経 132 度、北緯 34 度に位置し、中国山地の中山間地域で盆地の多い地形である。広島県との県境にあり、広島市内からは一時間圏内で、山陰・山陽の結節点である。総面積は 419.2 平方キロメートル。人口は 12,393 人で、高齢化率が人口の 39.8%である。農業を基幹産業としている。

日本海性気候に属し、かつ山地性の気候で夏に雨が強く、昼夜の温度差が大きい山間地特有の気候といえる。住民の目線にたった行政運営を行い、「夢響きあう元気の郷づくり」実現に向け町づくりを続けている。米や野菜がおいしく、特産品として石見和牛、醤油、地酒、ハーブなどが有名である。

## 2、体験内容

- ・やまんばまつり手伝い
- ・産業、観光資源等
- ・産直市みずほでの販売実習
- ・羽須美での農家民泊
- ・知夫小学校教育旅行受け入れ
- ・邑南町活性プロジェクト会議
- ・地方紙に関して（大学研究テーマ関連）

## 3、参加動機

私はこれまで地方の抱える過疎や格差の問題に関し耳にしても、暮らしを知らないので実感が湧かなかった。自然が好きで田舎の生活に興味があったので、現地の生活を体験し、人々との交流を通して直接学び地方のことを理解したいと思った。

またミニコミ誌学生ライターの経験から、机上では得ることのできない、実体験から得られる気づきを大切にしたいと考えた。邑南町を選んだのは、島根県を訪れたことがなく、どんなところかあまり知らなかったこと、「やまんばまつり」の写真をみて興味をひかれたからである。

## 4、スケジュール

日付	体験内容	滞在先
8月11日	任命式、歓迎会	農家民宿日高
12日	香木の森、シックスプロデュース、断魚溪、こて絵、バレー見学	〃
13日	やまんばまつり準備、産直市販売、そば打ち体験	〃
14日	やまんばまつり、すっぽん解体見学	農家民宿小田
15日	産直市販売	〃
16日	産直市販売	〃
17日	知夫小受け入れ会議、垣崎醤油見学	農家民泊今ちゃんの家
18日	羽須美地域農業体験	〃
19日	羽須美地域農業体験、あゆのつかみどり手伝い	〃
20日	知夫小受け入れ準備	ツーリズムの宿石橋
21日	知夫小受け入れ（稲刈り・川遊び等）、地方紙研究、子供神楽	〃
22日	千丈溪ウォーキング、報告会準備	〃
23日	知夫小見送り、報告会準備	小笠原家

24日	報告会、学生でつくる邑南町活性プロジェクト会議	〃
25日	活性プロジェクト会議、みずほスタイルのお話 役場若手職員との交流会	久喜林間学舎
26日	久喜鉦山、米袋記入作業	農家民宿にいや
27日	草刈り体験、市木散策	〃
28日	町役場あいさつ、インターン終了	

## 5、活動内容紹介

### ・やまんばんまつり

今年で三十一年目になる「やまんばんまつり」にスタッフとして参加した。当日の手伝いなどで出会った地域の方々とお話やその温かさが心に残った。会場設営を手伝い、神事に参加して火おこしも体験した。

本番では浴衣を着せてもらい、まつりの盛り上げ役として、また、山車の人気投票の集票スタッフとしてステージで紹介され、邑南町の特産品に扮して登場した。大勢の地域の人々に曳かれて山車が運ばれる様子に感動した。やまんばんだけでなくアニメのキャラクターの山車もあり、地区ごとに個性があって見えて面白かった。盆踊りに参加し、ステージで披露されていた子どもたちのダンスやあらがね太鼓を見てまつりの活気を五感で感じた。

運営上の予算の問題や苦勞も耳にしたが、これからもすべての世代が楽しめる素敵なまつりを続けて欲しい。



### ・産業・観光資源（香木の森、シックスプロデュース、断魚溪、千扇溪、すっぽん解体等）



香木の森ではブルーベリーの摘み取りをさせてもらい、独身女性対象の研修制度が行われていることなどを知った。

また、牛舎がなく放牧された牛からとった牛乳を生産し、全国の百貨店などでも販売しているシックスプロデュースの会長から、新しいことに手探りで挑戦を続けていて、地方の雇用を大事にしていることも聞きヒントをもらった。

邑南町の名勝である断魚溪、千丈溪も訪れた。断魚溪では雨にあい、足もとがすべったが、橋の上からの眺めがよく、別の日に参加した千丈溪ウォーキングでは天気に恵まれ、いくつかの滝も見られ自然を満喫し気分転換できた。羽須美からの参加者や、岡山の大学から福祉の実習に来ている学生など、参加者とおしゃべりも楽しんだ。

すっぽんの解体を見る機会もあり、命をいただくありがたみを強く感じた。刺激が強いかもしれないが食育にも生かせそうだと思う。



## ・産直市みずほ



道の駅にある産直市みずほで販売の手伝いを三日間行った。レジでの商品の袋詰めや、花売り、試食を配るなどの作業に取り組み、お盆の頃だった為店内は帰省客で混みあい大忙しだった。社員やパート、野菜を出している農家の方とのコミュニケーションが楽しかった。

みずほの専務に経営について話を伺い、取り組みや運営システムについて理解した。野菜がとても安く、農家の小遣い稼ぎ程度と聞き、形がわるい野菜を販売できる点がいいが、もう少し高くしても売れるのではないかと思った。レジで毎回大量のレジ袋を消費するのが気になり、環境に悪いのでエコバッグを推進できないだろうかと考えた。

## ・羽須美での農家民泊



私がお世話になった農家では、ご主人が農業と過疎の問題に関して熱心に話してくださいました。限界集落や消滅した集落跡も見せてもらい、そこで耕作放棄地も多く見ることで過疎が進んでいることを実感した。

農業体験ではらっきょうの球根を植え、キャベツや白菜の種まきをした。稲刈りは時期的に早く、羽須美ではできなかつたが、市木に戻ってから稲刈りや草刈りの体験をすることができた。農作業は地道に一つずつ種を

植えたりすることや、草刈機で勢いよく草を刈ること、どちらも広い土地で行うには体力のいる仕事だと思った。

魚釣りや投げ網も、羽須美で初めて体験した。出雲市から来た小学生のための鮎のつかみどりイベントの手伝いで、いけすの設営と昼食づくりを手伝った。子どもたちは、普段自分たちの食卓にあがっている魚が生きていることに触れる経験はほとんどないようで、貴重な食育の機会になっていると感じた。



## ・知夫小学校教育旅行受け入れ（稲刈り、野菜収穫、川遊び、レクリエーション等）



市木小学校との交流の一環で、隠岐の知夫村から九人の小学生を四日間受け入れ、その手伝いをした。到着の晩は、レクリエーションゲームとキャンドルサービスを行い、二日目は稲刈りや野菜のもぎ取り体験、川遊びなど子ども達の安全に配慮しながらも一緒になって楽しめた。

市木の子供神楽では、小学生が神楽の舞を踊り楽器の演奏も行っていた。

衣装を着る体験をさせていただいたのだが、私たち大人でもずっしりと重く感じたのでこれを着て踊ることは大変なことだと感じた。今回のように伝統芸能を他の地域の子供達にも伝えることで、両方にとって良い刺激になっていると思った。



## ・島根県の地方紙



今回の知夫小受け入れなど、全国紙が取材に来ないところにも地方紙は来ていることに気づいた。知夫小の農業体験を取材に来ていた地方紙の記者に、全国紙と地方紙の違いや、地方紙がどのように地域とかかわっているのかを聞いた。ひとつのテーマを突き詰めて継続して取材していくことは、地域に密接にかかわる地方紙のほうが全国紙よりできるのではないかと納得した。全国紙だと記者は数年で派遣先が変わってしまうが、地方紙は支局の数も限られているので地域とより深く関わっていけるのではないだろうか。



記者との会話から新聞が地方の取り組みや行事を取り上げることで、地域を元気にし、都会にも知らせることができる可能性があることを知った。このように地域へ貢献していけるのは、地方紙のもつ可能性で、魅力だと感じた。

#### ・ 邑南町活性プロジェクト会議

昨年学生によって立ち上げられたプロジェクトの会議に、昨年度のインターン生などと共に参加した。名前のとおり邑南町活性化のためのプロジェクトで、一日目は「邑南町のどこに魅力を感じるか」「邑南町に来たきっかけ」を話し、「邑南町を知ってもらうきっかけ作り」の手段を考えた。

二日目は、学生対象の「田舎体験ツアー」のメニューに関して意見を出し合い、企画のコンセプトを「ものづくり」と「暮らしと文化」の二本柱で考えていくことになった。会議ではオブザーバーの町長、課長、旅行社の方などから頂いたアドバイスも大変参考になった。これから更に話し合いを進め、邑南町の活性化に役立てたい。



### 6、地域への提案

私は邑南町へ以下の六つの提案をした。

・ **大学サークル合宿の招致**... 邑南町には三か所にテニスコートがあり、それを大学のサークルの合宿に活用してもらおう。若い人が邑南町を訪れるきっかけとなり、邑南町のファンを増やすことにつながる。

・ **自転車の貸し出し**... 滞在中の移動手段はほとんど車だった。少し離れた場所に行くには自転車があると便利だと思い、旅行などで滞在する人が町内を気軽に移動できるように、町役場や駅の近く、民宿などで無料から安い料金で貸し出すとよいと思う。

・ **産直市同士の連携** ... 産直市「みずほ」は年々売り上げを伸ばし成長しているが、既存の他の産直市の売り上げが年々減少していることを耳にした。一つの産直市の売り上げが上がっても、他がつぶれるようなことになれば、近くの産直市に野菜を出荷している高齢の生産者は、遠くて出荷できなくなる人も出てくるだろう。そこで産直市同士が連携することが必要だと思う。具体的には他の産直市の場所の案内などを書いたチラシなどを店頭において相互に宣伝するとよいと思う。

・ **邑南町のみやげもの・地域ブランドの確立**... 産直市で休憩時間に土産物を探した際、石見銀山関連などしか見当たらなかった。そこで邑南町ブランドを作り、加工食品や野菜、量産が可能なみやげものを売り出せばいいのではないかと。たとえばジャムなどである。

・ **PR キャラクターの公募**... みんなから愛される邑南町の PR キャラクターを公募するとよいと思う。それをイベントやメディアなどで活用すれば、町の知名度を上げることができると思う。邑南町に生息しているハンザケ（オオサンショウウオ）、イノシシ、サル等で募集し、インパクトがあるものがよいと思う。

・ **隣接地区同士の交流イベントの実施**... 合併を経て地域づくりをしていく上で、地元の人たちの連携・交流が必要だと強く感じた。隣り合う地区同士で、子ども同士の交流イベント（スポーツなど）の実施から始め、交流を推進するといいたいだろう。

### 7、体験を終えて

邑南町での十八日間はあっという間だったが、豊かな食と自然と、人の温かさを感じることができた。星空はとてもきれいで、プラネタリウム以上の星空が広がっていることに感動した。

羽須美地域で目の当たりにした過疎地の現状、また何人もの地域の方の口から「自分の子どもでさえ引き留めることができない」という悩みを聞き「なんとかしてあげたい、どうしたらいいのだろう」と考えるようになった。地方のよさを知るとともに、抱える問題やその深刻さも実感した。

十月には里帰りして神楽ツアーの手伝いをする予定である。これから多くの人に邑南町のよさを伝えて、プロジェクトの一員として、邑南町が少しでもよくなるよう恩返しをしていけたらと思う。最後に、受け入れ期間中お世話になった役場の方々、泊めていただいた民宿・民泊の方々、出会った方々すべてに感謝の気持ちを表したい。暖かく迎えてくださり本当にありがとうございました。これからも末長くよろしくお願いいたします。



体験調査員氏名: 白枝悠太

所属: 大阪大学大学院工学研究科環境・エネルギー工学専攻修士課程 1 年

派遣地域: 島根県邑智郡邑南町

派遣期間: 8 月 11 日 ~ 9 月 1 日 (22 日間)

### 派遣地域の概要: ~ 中山間地域を代表する邑南町 ~



邑南町は、平成 16 年に旧羽須美村、旧瑞穂町、旧石見町の三町村合併により新しく誕生した町であり、「邑南」とは古くから地域全体を表す名称として親しまれているとともに、同町の「夢響きあう元気の郷づくり」というスローガンにも適していることからこの名がついた。島根県の中部に位置し、中山間地域として島根県と広島県の境にある町として、古くから山陰・山陽を結ぶ交流拠点になっている。

山間部に位置しており、かつ中国地方最大級の河川である江の川の源流に位置していることから、非常に豊かな自然に恵まれており、ゲンジボタルやオオサンショウウオなどの希少種も生息する「日本の原風景」が残る土地である。また、住民の方々も非常に温かく、かつ地元を愛する方が多く、独創的で先導的な取組みを積極的に行っている町である。今後、中山間地域を始め日本が抱えるであろう課題にいち早く取り組んでいるトップランナーの地域である。

一方で、中山間地域が抱える課題が見られる地域でもある。町の面積の多くは山林が占めており、総面積 419.2km<sup>2</sup> に対し、可住地面積が 55.3km<sup>2</sup> と全体の 13% である。そのため住区は分散しており、中には限界集落になっている場所もある。また、農業が基幹産業であるが、高齢化率が 39.7% と高齢者が多く、担い手不足等の課題もあり、こうした課題は今後日本各地で見られるようになって考えられる。



### 参加動機: ~ なぜ、この事業に参加し、邑南町に行くことにしたのか? ~



私は島根県出雲市の出身で、大学進学を機に大阪に出ることになった。そのため純粋な都会の学生ではないが、いい意味で都会と田舎の両方を知る立場であると思う。

私が参加したそもその理由は、私が高校生の時に地域開発に疑問を持ったことから始まる。地域が開発によって変化していくことで、思い出の場所、つまり「ふるさと」がなくなっていくように感じたことが、地域に興味をもつきっかけになった。また、駅前のシャッター商店街や高齢化といった地域が抱える課題を島根県は先取りしており、こうした現状を目の当たりにして、なんとか「島根を元気づけたい!」と思うようになった。

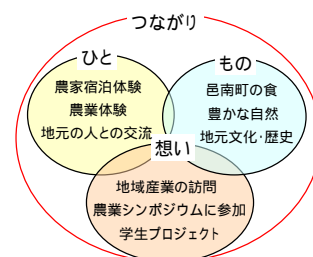
そこで、大学では「いかに環境(自然、ふるさと)を守りつつ、地域が発展していけるか」ということを学び、地域活性化について勉強していた。しかし、「机の上で勉強しているだけでは、本当に地域が抱えている問題の実情が理解できるのか」と強く思うようになり、今回この事業に参加することで実際に地域の実情を肌で実感したいと思ったことが参加動機である。また、邑南町を希望した理由は、私の出身である島根県であることが第一にある。東西に長い島根県では、なかなか西部や中山間地域に足を運ぶことがなく、私の目的である「島根県の活性化」のために、出身である出雲市以外の実情を感じたいと思ったことが邑南町を希望した理由である。

### 体験スケジュール: ~ 私の邑南町での22日間 ~

日程	午前	午後	夜	宿泊先
8月11日		着任式	歓迎会	農家民宿日高
8月12日	香木の森見学 シックスプロデュース工場見学	断魚溪散策 みずほ産直市見学 こて絵見学 元気館にNEC練習見学		"
8月13日	やまんば祭り準備	産直市手伝い		"
8月14日	やまんば祭り準備 すっまん調理	やまんば祭り準備	やまんば祭り	農家民宿小田
8月15日	産直市体験	産直市体験		"
8月16日	産直市体験	産直市体験	市木市街散策	"
8月17日	農作業つみとり体験 知夫小受け入れ会議	垣崎醤油見学		農家民泊ことぶき
8月18日	羽須美農家体験	羽須美農家体験	BBQ	"
8月19日	羽須美農家体験	羽須美農家体験		"
8月20日	羽須美農家体験	知夫小学校歓迎会準備	知夫小学校歓迎会	グリーンツーリズムの 宿石橋
8月21日	知夫小学校教育旅行手伝い	知夫小学校教育旅行手伝い	こども石見神楽見学	"
8月22日	千丈溪ウォーキング	知夫小学校送別会準備		"
8月23日	自由行動(大学PJ参加)	自由行動(大学PJ参加)		小笠原家
8月24日	報告会(北尾)	邑南町学生でつくる地域活性化会議		"
8月25日	邑南町学生でつくる 地域活性化会議	役場職員の方による勉強会	職場若手職員との 交流会	久喜林間学舎
8月26日	喜久鉦山見学および移動	草刈体験		民宿こいや
8月27日	農作業体験	農作業体験		"
8月28日	こせがれネットワーク準備	こせがれネットワークシンポジウム	こせがれ交流会	小笠原家
8月29日	自由行動	自由行動	温泉	"
8月30日	報告会準備	報告会準備		土居ランド
8月31日	報告会準備	報告会(杉本、山岸、白枝)	送別会	"
9月1日	町長と役場の方々へ挨拶	解散		

## 活動紹介・体験成果: ~ 体験から私が学んだこと ~

ここでは、私が邑南町で体験した内容と、そこから学んだことをカテゴリー分けし、報告することにする。邑南町での体験を通じて私は、「ひと」「もの=資源」「想い」と「つながり」を感じた。これらについて詳細に報告していく。



### 「ひと」を感じた体験



うことができた大切な時間であった。

さらに今回は、体験には直接関係のない近所の方々や、役場の職員の方々との交流の場を設けて頂き、より地域の「生の声」を聞いたのではないかと思います。地元の方々との会話を通じて、改めて「地域づくり」とは「人づくり」であると感ずることができました。

私は今回、ほとんど毎日農家の方々のお世話になった。これは非常に貴重な体験であり、ただ宿に泊まるだけの観光型では味わえない、地元の方との交流をたくさんすることができた。会話の中には、ご自身のことや農業のこと、地域のことが聞くことができ、こうした話は大学の教科書では絶対に分からない内容だった。また、各農家では様々な農業体験をさせて頂き、貴重な体験になったと共に、農業(農作業)を通じて「ひと」と触れ合



### 「もの=資源」を感じる体験





「地域には地域の魅力がある」という言葉を今回ほど実感したことはなかった。邑南町で私がまず実感したのは、なんと言っても「食」である。豊かな自然環境に恵まれた邑南町では、無農薬で栽培された新鮮な野菜、大自然で育てられた石見牛・石見ポークや乳牛、鮎などの新鮮な川魚やすっぽんといった珍味まで、美味しいものがあふれていた。食べてみれば一目瞭然、その味の違いにただただ驚くばかりであった。こうした「食」に関連して、「豊

かな自然」も資源として挙げられる。山あり、川あり、赤瓦の家並みありと、時間帯や四季折々その姿を変える自然は、まさに「日本の原風景」と言えるすばらしいものであった。また、地元文化や伝統工芸に触れることで、その地域の歴史を感じることができた。特に島根県は古い歴史と地域性をもっており、こうした伝統文化・工芸は後世に伝えていくべき「魅力」であると感じた。



### 「想い」を感じる体験



今回、地域産業をしておられる方のお話を伺ったり、役場の職員の方や農業シンポジウムでの交流会で農業に対して熱い想いをもっておられる方との会話をしたりすることができた。それぞれ独自の理念や取り組み方をもっておられたが、その中に共通する想いを感じることができた。それは「地域のために」という想いであった。これは邑南町を越えた方との会話にも共通しており、どのようなアプローチであろうと、地域活性化のためには「地域を

愛する気持ち」と「地域を誇る気持ち」が必要なのだと、当たり前のことを改めて感じる事ができた。また、交流会では同年代の方と話をすることができ、貴重な体験になったとともに自分にとって非常に刺激となる時間を過ごすことができた。

### 「つながり」を感じる体験

以上に述べたような体験を通じ、私は「地域」は「人」で、「地域づくり」は「ひとづくり」であり、「つながり」であると感じた。邑南町の最大の魅力は「つながり」ではないだろうか。この22日間で、邑南町の方々となつなかりを持てたことはもちろん、学生でつくる邑南町活性化プロジェクトでは、邑南町にゆかりのある学生が主体となって邑南町を盛り上げようということで、邑南町を舞台につなかりを持つことができた。そしてなんといっても同じ想いを持つインターン生とこうした出会い、つながりを持てたことが、最大の成果のひとつであったと思う。



## **地域への提案：～私が感じた地域の問題点をふまえて～**

### 電動自転車のレンタサイクル

邑南町の様に住区が分散しているような地域では、主な移動手段は車であるが、自然豊かな邑南町では車に移動だけではもったいないと思う。しかし山間部に位置するために起伏が激しいので、電動自転車にすることでこうした問題はある程度解消されると考えられる。また、レンタサイクルの付加価値として、車の移動が減少することでCO<sub>2</sub>排出が減少することや、電動自転車の充電に太陽光発電を用いることで新エネルギー導入と産業振興の両立のきっかけになるのではないかと。

### 増える空き家の活用法

空き家が増加する邑南町では、棚田オーナーなどいろいろな取組みがなされているが、農業という視点からだけでなく、例えば建築関係やアート関係の学生や関係者を誘致して、空き家の改装を自由にさせるといった従来とは異なる視点からの募集も必要ではないか。また、こうした取組みが新たな PR になる可能性があるのではないか。

### 目的別観光マップ

邑南町には観光資源となる魅力が数多くある。こうした魅力を観光客のニーズに合わせて十分に堪能してもらえるよう、目的別にマップを作成することが有効ではないか？例えば基本的な邑南町の地理マップに目的別のマップを重ねることで、自分のニーズを満たす一つのマップが完成するという形で提供する。

### 大学・学生を媒体とした都市農村交流

地方の大学と都市の大学でそれぞれ求めているフィールドを互いに提供し合い、学生を派遣することで都市と農村の交流を活発化することが出来るのではないか。もしくはそのきっかけになるのではないか。

### 農業の価値を創造しよう

農業を「かっこよくて、稼げて、食べる3K 産業」にしようということで、農業の価値を創造していく必要がある。

その1 農業ブランド化の推進：農産物をブランド化するために味も重要であるが、それにブランド化のための PR が必要であると感じた。そこで、例えばご当地ブランドとして新たな製品を外部の調理・製菓学生に開発させてみるのはいかがでしょうか。

その2 付加価値を創造しよう：農業の価値を創造するために、他領域を巻き込んで付加価値を創造していく必要ではないか。例えば、農業・食育・スポーツを絡め、「健康」という付加価値を生み出すことで、農業の付加価値を創造していく。

その3 CO2 排出権取引に学ぼう！食料自給率取引！：行政も積極的に農業政策をしていかなければならない。そこで課題となる財源確保と人員確保の方法として、都市の直接関わることができない組織と農村で食料自給率取引をすることで、都市では CSR といった社会貢献ができ、農村では農業に必要な労力を提供してもらうことで、耕作放棄地の再生など食料自給率を上げる。こうした関係を持つことで、農業の価値を高めていくことができるのではないか。

## **インターンに参加した感想：～ 邑南町での3週間を振り返って～**

私は今回、この地域づくりインターンに参加し、邑南町に3週間滞在することで、大学の机の上では分からない貴重な体験をさせて頂いた。また、地元島根県の活性化に関わっていきたいと思う一方で、西部地域や中山間地域にはほとんど来たことがなく、まだまだ知らないことがたくさんあるなと感じた。

邑南町での生活で私が実感した魅力は、なんといっても「ひと」と「つながり」だった。これらは都会での生活の中で忘れていたものであり、こうした魅力は単なる訪問型観光ではなく、実際に地域で生活する滞在型観光でなければ分からないことだと感じた。こうした魅力をしってもらうためには、邑南町にもっと来てもらえるような「きっかけ」づくりが必要である。今回体験した「想い」を私たちが受け止め、そうした「きっかけ」づくりを学生が担っていく



ことが、今後の地域活性化には欠かせないことであり、お世話になった邑南町への恩返しになると思った。

是非、今回のインターンでつながることが出来た仲間と、また邑南町に帰ってきたいと思います。

# 平成21年度 若者の地方体験交流支援事業 体験調査レポート

島根県邑智郡 邑南町 / 平成21年8月11日(火) ~ 9月1日(火) 22日間

立教大学観光学部交流文化学科3年 杉本陽一

## はじめに 参加動機

昨年度、所属している文化人類学のゼミで、埼玉県秩父市のお祭りのフィールドワーク実習を行った。そこで地域の人たちと交流していく中で、田舎の良さ、例えば人と人の繋がりが色濃く残っていることなどをこの肌で感じ、また、自分とは今まで縁のなかった土地を訪れ、そこに暮らす、言わば自分とは違う生き方の人たちと出会い、関わりあうということが、こんなにも面白いものなのかと感じた。そのような経験のある自分にとって、このインターン事業はとても魅力的だった。また、何をしてもお金でモノを買うという都会の暮らしよりも、自分で何かをつくって生活するというような田舎の暮らしにどこか惹かれるものがあり、田舎での暮らし、農ある暮らしというものを体験してみたいと思っていたことも、このインターン事業に参加したきっかけである。特に、この島根県は日本の中でも良い意味で「本物の田舎」が残る場所だということを知り、ぜひこの目でその田舎の抱える問題や魅力を見てみたいと思った

## 邑南町の紹介

この町は平成16年10月1日に石見町・羽須美村・瑞穂町という三町村の合併により誕生した。横に長い島根県の真ん真ん中、南寄りに位置し、町の南側を広島との県境に接する。その地理的な近さゆえに、この地域では昔から、言葉などの文化の面でも経済の面でも広島との結びつきが強い。また、中国山地と石見高原の間に位置するいわゆる中山間地域であり、町の総面積419.22km<sup>2</sup>のほとんどを山林が占め、その合間を中国地方最大の江の川の源流が流れているという、水資源にも恵まれた自然豊かな町である。その豊かな自然により育まれた農業がこの町の基幹産業であり、米をはじめとした様々な作物が栽培されている。また、この田んぼの広がるこの地を舞台に、古くから神楽が舞われ、現在でも地域の人たちに受け継がれている。平成21年7月1日現在、町の総人口は12,417人で、そのうち高齢者の占める割合は39.7%という、おじいちゃんおばあちゃんの多い町である。



## 体験スケジュール

日付	体験内容			宿泊場所
	午前	午後	夜	
8/11(火)		任命式 オリエンテーション	歓迎会	農家民宿 日高
12(水)	香木の森・シックスプロデュース 見学	断魚渓ウォーキング 出羽地域巡り		農家民宿 日高
13(木)	やまばまつり準備	産直市みずほ手伝い		農家民宿 日高
14(金)	やまばまつり準備	やまばまつり	やまばまつり	農家民宿 小田
15(土)	産直市みずほ手伝い	産直市みずほ手伝い		農家民宿 小田
16(日)	野菜収穫 産直市みずほ手伝い	産直市みずほ手伝い		農家民宿 小田
17(月)	ふるさと体験旅行 打ち合せ	垣崎醤油見学 羽須美地域巡り		農家民宿 のぶしの宿
18(火)	棚田草刈り	鮎の投網漁体験	ご近所でBBQ会	農家民宿 のぶしの宿
19(水)	農作業手伝い 工芸体験	羽須美名所巡り		農家民宿 のぶしの宿
20(木)	志都岩屋弥山・久喜鉱山 散策	ふるさと体験旅行手伝い (受け入れ準備)	ふるさと体験旅行手伝い (レクリエーション)	ツーリズムの宿 石橋



21 (金)	ふるさと体験旅行手伝い (稲刈り・田舎料理)	ふるさと体験旅行手伝い (川遊び・野菜収穫)	ふるさと体験旅行手伝い (子供神楽鑑賞)	ツーリズムの宿 石橋
22 (土)	千丈溪ウォーキング	ふるさと体験旅行手伝い (お別れ式準備)		ツーリズムの宿 石橋
23 (日)	ふるさと体験旅行手伝い (お別れ式)	田舎ツーリズム事務局 事務作業手伝い		小笠原さん宅
24 (月)	研修報告会 (北尾)	「学生でつくる邑南町活性 プロジェクト」会議		小笠原さん宅
25 (火)	「学生でつくる邑南町活性 プロジェクト」会議	定住企画課 職員の方からのお話	役場職員との交流会	久喜林間学舎
26 (水)	久喜鉱山探検	田んぼ草刈り		農家民宿 にいや
27 (木)	田んぼ草刈り	圃場耕作		農家民宿 にいや
28 (金)	「農家のこせがれネットワーク」 (会場準備)	「農家のこせがれネットワーク」 (設立発表会)	「農家のこせがれネットワーク」 (懇親会)	小笠原さん宅
29 (土)	自由時間	研修報告会準備	いこいの村しまね 入湯	農家民泊 土居ランド
30 (日)	研修報告会準備	研修報告会準備	研修報告会準備	農家民泊 土居ランド
31 (月)	研修報告会準備	研修報告会 (白枝・杉本・山岸)	送別会	農家民泊 土居ランド
9/1 (火)	挨拶回り 及び 自由時間	帰路へ		

## 主な体験内容

### やまんばんまつり

石見地域で30年ほど前から続くやまんばんまつり。この地域に伝わる心優しいやまんばんの伝承をもとにしたこの祭りは、良い意味で手作り感のある、地元の人たちの想いのこもったとてもあったかいお祭りだった。僕ら大学生も祭り本番だけでなく、当日の朝の準備から神事までを参加させていただいた。祭りの夜には、どこにこれだけの人が入ったのかと皆で

驚くほど、会場である小学校の校庭が人でいっぱい賑わっていた。地元の方々とは今日会ったばかりの僕ら大学生にも分け隔てなく接して下さり、また、昨年に引き続き今年の大学生にも大事な任務が与えられ、それぞれ特産品に扮してステージに上がって話したり、子どもたちのダンスに乱入したり、群衆にお餅を放り投げたりと、お祭りを楽しんだ。

ステージにて



山車をバックに



### 産直市手伝い

ここ産直市みずほでは、3日間ほどお世話になり、裏方で野菜の袋詰めや石見ポークの串焼きの売り子など、一通りお手伝いをした。裏方で作業をしているときには、農家の方々が声をかけて下さったりいろんな野菜をいただいたりと、田舎のあたたかさを感じる1コマもあった。そして、このときに頂いた生トウモロコシの味は一生忘れない。それぐらい

おいしかった。また、この産直市で一番印象に残ったのは、レジの上に並んでいる農家さんたちの写真だ。壁一面に並ぶたくさんの顔に何か魅かれるものがあった。皆さんとても良い顔をされていて、野菜づくりや産直市での販売を楽しんでおられるのだなと感じた。また、お手伝いの合間に専務の方から産直市のお話を伺った。そのお話の中で、「農家のための産直市」という言葉が心に残った。農家の方は普段、直接お客さんとかかわる機会が少ないため、仕事を評価されることもなく、どうやったら売れるのかといった工夫をすることもなかなか無いそう。そこで、地元農家を何とか応援しようと、ここ産直市は自由な発想で商品を卸せる場や、お客さんから直接「おいしい」と評価してもらえる場として、農家の方たちへ開かれているそう。農家さんたちの笑顔の理由が少しだけわかった気がした。

壁一面の笑顔



レジでの手伝い



## 地場産業見学

地元で八十年前から醸造業を営む垣崎醤油さんと、地元大学生が起業したことで有名な、酪農業を営むシックスプロデュースさんへ見学に行き、それぞれの会社でお話を伺った。酪農であれば牛、醸造であれば微生物というように、どちらもとことん自然と向き合い、楽しみながら、数々のこだわりを持ってものづくりをされている。まさに職人仕事。また、そのように良いものを作りつづけると同時に、お客さんの元へ届くまでの仕掛けづくりなどにも、常に新しい目をもって取り組んでおられる。そんな“古くて新しい”ものづくりの心に深く共感を覚えた。そして、地元を元気にしたいという想いや、お客さんとの繋がりを大事にする気持ちがお話からひしひしと伝わってきた。そのように、熱い想いをもってものづくりに取り組んでおられる姿を見ていると、何かかとても羨ましいと感じた。自分もやってみたい。

醤油工場見学



ソフトクリームに舌鼓



## ふるさと体験旅行手伝い

小学生を対象に行っている、ふるさと体験旅行のお手伝い。邑南町では宿の方々と役場とが協力し合い、子どもたちの受け入れを盛んに行っている。この夏は隠岐島の知夫小学校から9人の子どもたちがこの町を訪れた。4日間の滞在の間、子どもたちは稲刈り体験や川遊び、神楽鑑賞などを通して邑南町の魅力に触れ、とても楽しそうな様子だった。僕ら大学生もお手伝いという立場ながら、元気いっぱいな彼らに負けることなく、一緒になって楽しんだ場面もあった。しかし、そう遊んでばかりはいられないと、お別れ式には僕らから子どもたちへあるプレゼントをした。皆喜んでくれただろうか。この体験旅行を通して、今回のような子供たちの受け入れは、宿の方をはじめとする地元の方々と役場の方との協力がなくては成し得ないことだと感じた。両者が手を取り合って地域のために頑張っておられる姿を見て、ここは本当に元気な町だなと改めて思った。また、ある宿のお母さんから小学生を受け入れた際の思い出話をお聞きした時に、「ほんにこの谷がぱーっと明るくなったんよ」と笑顔で話しておられたのがとても印象的だった。子供の力ってすごい。

稲刈りに夢中の子供たち



お別れの記念撮影



## 羽須美地域体験

旧羽須美村の民泊「のぶしの宿」で3日間お世話になった。ここはこれまで他のインターン生とずっと行動を共にしてきたが、ここで初めて自分一人での宿泊となった。初めこそ寂しかったものの、周りを田んぼや里山に囲まれ、のんびりとした空気に包まれた家で過ごしているうちに、寂しいどころか自分の田舎にいるようで、ずっとここに住みたいと思うくらい満たされた時間を過ごせた。午前中はおとうさんの手伝いで棚田の草刈りなどをして汗を流したり、昼はのんびり昼寝をしたり、自転車で家の周りを散策したり、午後は家の前を流れる川で鮎の投網漁をしたり、おかあさんに教えてもらいながら手芸品を作ったり、夜は近所の方々とバーベキューをしながらお酒を飲み交わしたり...と、とても充実した毎日だった。そんな楽しい毎日を過ごした一方で、この地域の問題にも触れた。集落のいたるところにある空き家や耕作放棄地。今後さらに高齢化、過疎化が進んでいけば、それらはもっと増えていく。今でこそ「しゅわい」「大儀い」(この言葉で「しんどい」などという意味)と言いながらも元気に農業に励むおじいちゃんおばあちゃんたちも、いずれは体力的にも無理がくるだろうし、また、移動手段として無くてはならない車の運転もできなくなるときが来る。ふと、この地域の10年後、20年後の姿を想像してみる...今こそ力の有り余る若者の出番ではないか。

家の裏に広がる棚田



近所の方とBBQ



## 農作業手伝い

宿泊先のいくつかの宿で農作業のお手伝いをした。内容は田んぼの草刈りや畑の耕作、野菜の収穫などだった。生まれて初めての草刈り機や耕運機などの農業機械の操作だったため、はじめはうまく動かせるかどうか緊張したが、草刈りにいっては、もう既に羽須美で経験を積んでいたからか、インターン生4人の中で一番うまいとの評価を宿のおとうさんから頂いた。農家の方にとっては、このように草を刈ったり、畑を耕したり、野菜を収穫するという作業は日常の

1コマであり、身近すぎて新鮮味や面白味を感じることはあまりないのかもしれないが、普段なかなか農業に触れる機会の無い自分にとっては、見聞き体験することが全て新鮮で、非常に楽しく作業を手伝うことができた。しかし、楽しい

とは言っても、なかには力の要るしんどい作業もあるし、それを365日毎日やることを考えると少し骨の折れる仕事だと感じた。ましてや、おじいちゃんおばあちゃんは自分なんかよりももっと大変な作業だと思う。土を耕し、草を刈り、種を植えて、収穫して…。農業の楽しさと同時に、農業の苦勞を少し垣間見た気がした。

冬野菜畑の耕作



田んぼの草刈り



朝イチでナスの収穫



### 学生でつくる邑南町活性プロジェクト会議

邑南町に昨年インターン生としてお世話になった学生が主体となり、このプロジェクトが発足した。その起ち上げ会議が2日間に渡って行われ、そこに僕ら今年のインターン生も参加することになった。1日目の会議では、役場の方とインターン生をはじめ、島根短大の学生や教授、旅行会社の方、地元の方など多くの人が集まる中で、いろいろな立場からの意見が交わされていた。2日目の会議では学生だけ今後のプロジェクトの展望や具体的な企画等を話し合った。そもそも、このプロジェクトが起ち上がった背景には、昨年度のインターン生がお世話になった邑南町の皆さんに何か恩返しをしたいという想いがあった。今年お世話になった自分も、今、同じ想いでいる。今後、邑南町にお世話になりっぱなしの学生がいかに恩返しをしていくことができるのか、皆で真剣に取り組んでいきたいと思う。



### 地域への提言

このインターンを終えて一番心に残ったのは、元気溢れるおじいちゃんおばあちゃんの姿だった。この町では高齢化、過疎化がどんどん進み、「限界集落」といった言葉が並べられる一方で、そこに住む方たちにはどこか活気が溢れていた。しかしそうは言っても、今後10年、20年先のことを考えると、多くの問題が見えてくるのもまた事実である。例えば、荒れていく棚田もその一つだが、そうやって昔から綿々と受け継がれてきたものがひとつ、またひとつと失われていくということは、ここに暮らしてきた先人たちの知恵や文化が失われるということでもあり、広い目で見れば日本人全体にとっても大きな損失なのではないかと思う。しかし、それを守り続けるのはそう容易なことではない。ましてや、それがおじいちゃんおばあちゃんとなれば、さらに大変なことだ。そこで、田舎の暮らしや知恵を次の世代に受け継いでいくためにも、おばあちゃんおじいちゃんたちに代わって、ここは力の有り余る若者たちが打って出るときなのではないだろうか。そのような想いから、地域に若者を呼び寄せるために二つの提案をした。

**地域通貨×ボランティア** この3週間のインターンでの経験から、若い力というのは田舎の農家でかなり重宝がられるものなのだと感じた。もう引っぱり尻！そこで、田舎や地域づくり、農業などに興味のある若者ボランティアを若い力を必要としている農家へと募り、その労働の対価として、町内の産直市や田舎ツーリズムの宿、観光施設などで使用できる「地域通貨」を付与する仕組みをつくるのはどうだろうか。それは、若者を呼ぶ手助けになるし、また、町内の産業の活性化にも繋がる。「地域通貨」がこの町と若者とを繋ぐ役割を果たせたら良いと思う。

**農家へ居候(ワーキングホリディ)制度** 邑南町では田舎ツーリズムなどの田舎を訪れるきっかけづくりを活発に行っているが、訪れた人がその先にある定住までを考えるのは、なかなか難しいのではないかと感じた。そこで、定住までの第一歩として、一年単位で農家への「居候」の受け入れを充実させてはどうか。それにより、猫の手でも借りたい農家の方と、近年増える農業を志そうと考える若者、両者の想いを一致させることができる。また、長く農家に「居候」させてもらうことで、農業の確実な技術の習得も見込めるし、地域の方との信頼関係を築くこともできるため、より現実的に若者の定住へと繋げることができるのではないだろうか。この町の基幹産業である農業を少しでも生かしたい。

### さいごに 感想

ほんの少し前までは名前も知らなかった邑南町が、この3週間のインターンを終えた今ではとても大きな存在となっている。この夏、この町で過ごした毎日を大切にしていきたいと思う。滞在中はたくさんの人に可愛がっていただいた。この出会いに感謝したい。本当にありがとうございました。そして最後に...これからもよろしくお願いたします。



# 平成 21 年度 地域づくりインターン事業体験調査レポート

派遣地域：島根県邑智郡邑南町

体験期間：平成 21 年 8 月 11 日～9 月 1 日

体験調査員：大阪大学大学院 法学研究科 知的財産法プログラム 1 年 山岸夕花

## 1. 参加動機

私は、大学院で「地域振興における知的財産の役割」というテーマのもと、各地域の人的・物的資源の活用を、特許法や商標法といった知的財産法の分野で実現し、地域の活性化につなげる方策について研究しています。この研究を進めるにあたり、多くの地域を訪れ、地域振興のための取組みを見聞きたいと思っていますが、短期間の滞在では、地域の方と交流する機会も乏しく、観光だけで終わってしまい、地域の生活や文化など地域のことを深く知ることは難しいです。

そこで、このインターン事業に参加して、実際にその地域の中で暮らし、イベント等を通して地域の人々と交流する中で、地域の現状を知り、地域振興について考えてみたいと思い応募しました。

## 2. 邑南町の概要

邑南町は中国山地の中山間地域で広島との県境に位置しています。平成 16 年 10 月 1 日に羽須美村、瑞穂町、石見町の 3 町村合併により新しく誕生した町であり、「夢響きあう元気の郷づくり」をテーマとして新しい町づくりを行っています。農業を基幹産業とし、総面積 419.2 km<sup>2</sup>、人口 12,048 人、高齢化率は約 40% と高齢者の多い町です。

町名の「邑南」は古くから三町村の地域全体を表す名称として親しまれており、また、「邑」には小さな都、人の多く集まるところの意味があり、「南」には人情温かく産物が豊かに実り、和やかで将来に夢と希望を与える明るいイメージがあることから決定しました。



## 3. スケジュール

日付	午前	午後	夜	宿泊場所
8月11日(火)		任命式	歓迎会	農家民宿 日高
12日(水)	高木の森 シックスプロデュース	断魚溪		農家民宿 日高
13日(木)	やまんばんまつり準備	産直市みずほ販売		農家民宿 日高
14日(金)	やまんばんまつり手伝い	やまんばんまつり神事	やまんばんまつり参加	農家民宿 小田
15日(土)	産直市みずほ販売	産直市みずほ販売		農家民宿 小田
16日(日)	産直市みずほ販売	産直市みずほ販売		農家民宿 小田
17日(月)	知夫小学校 受入打合わせ	垣崎醤油見学	ソフトバレー練習参加	農家民泊 うえざこ
18日(火)	羽須美地域めぐり	団樂	夕食作り手伝い	農家民泊 うえざこ
19日(水)	団樂	農作業手伝い		農家民泊 うえざこ

20日(木)	羽須美地域めぐり・移動	知夫小学校 受入準備		ツーリズムの宿 石橋
21日(金)	知夫小学校教育旅行手伝い	知夫小学校教育旅行手伝い		ツーリズムの宿 石橋
22日(土)	千丈溪ウォーキング	知夫小学校教育旅行手伝い		ツーリズムの宿 石橋
23日(日)	知夫小学校教育旅行手伝い	写真整理		小笠原家
24日(月)	報告会	学生でつくる邑南町活性プロジェクト会議		小笠原家
25日(火)	学生でつくる邑南町活性プロジェクト会議	勉強会	役場若手職員との交流会	久喜林間学舎
26日(水)	久喜鉱山見学	米袋記入		農家民宿 にいや
27日(木)	草刈	自由時間・米袋記入		農家民宿 にいや
28日(金)	こせがれネットワーク準備	こせがれネットワーク	Oh!カフェ	小笠原家
29日(土)	研修報告会準備	研修報告会準備		農家民泊 土居ランド
30日(日)	研修報告会準備	研修報告会準備		農家民泊 土居ランド
31日(月)	研修報告会準備	報告会	送別会	農家民泊 土居ランド
9月1日(火)	お礼の挨拶			

#### 4. 活動紹介

##### <やまんばまつり>

地域に伝わる「やまんば伝説」にちなんだ伝統あるお祭りです。帰省中の学生や若い夫婦なども多く、子供からお年寄りまでみんなが楽しんでいて、活気に満ちていました。地区ごとに創作した山車の競演があったり、ステージ発表や盆踊りがあったりと、地域住民参加型のお祭りでした。

私の地元では祭りの規模が年々縮小し、人も集まらなくなってきているので、こんなにも多くの人が集まり、みんなが楽しめるお祭りが続いていることをとてもうれやましく感じました。そして、この先もずっと地域住民が交流する場として、みんなに愛されるお祭りであってほしいなと思います。

私たちは準備や運営にも係わらせてもらったことで、やまんばまつりをより楽しむことができたし、わずかながらも祭りを盛り上げることができたのではないかと思います。邑南町の内外から大学生を集い、スタッフとして参加してもらうというのも、やまんばまつりを活気あるお祭りとして維持していく上でいい方法かもしれないなと思います。



##### <地元企業見学>

私は、地域振興を実現する上で、地域の特産品を生かすということがとても重要だと考えています。そのため、地域の特産品を製造している地元企業の方から、直接お話を聴くことができたことは、貴重な経験となり、学ぶことも多かったです。

どの企業の方も地域の知名度を上げたいという想いから、地元産品を利用した商品開発や、地域の特産品の販売手法の整備を行っており、地域への想いの強さに感激しました。また、私が地域



振興を研究テーマに選んだ理由は、出身地である福井県をもっと知ってもらいたいという思いからだったので、すごく共感できました。地域への想いを抱いていても、自分の力では何もできないのではないかとネガティブに考えがちでしたが、邑南町の地元企業の方の話を聴いて、同じような想いを抱いている人が多いこと、小さなことから広げていくことができることを知り、とても勇気づけられました。

#### <農業体験（収穫、種まき、稲刈り、米袋書き、草刈り）>

白菜の種まきをしたときは、初めて白菜の種を見て、こんなに小さな種からあんなに大きな白菜ができるかと思うと信じられませんでした。改めて考えてみると、いつも食べている野菜がどんな種からどう生長していくのか、知らないものも多いように思います。

草刈りは、機械の扱いに慣れるまでは戸惑いましたが、しばらくすると自分なりにコツをつかんで最初よりはうまくできるようになりました。自分の周りがどんどん刈り取られていくので楽しかったです。ただ、斜面の草刈りではだんだん腰が痛くなってきて、他のインターン生と交代しながらやりました。私たちは一時的な体験としてやっているから面白いと思うことだけできるし、疲れれば交代することだってできますが、農家の方はそういうわけにはいきません。自分たちで続けていくしかない農家の大変さというものを改めて感じました。また、農家が大変ながらも作り続けてくれている米や野菜の大切さも身にしみて感じました。



#### <千丈溪ウォーキング>

邑南町で定期的に行われているウォーキングイベントに参加しました。参加者のほとんどが高齢者でしたが、私たちが負けそうなくらい元気な方ばかりでした。

木々の間から漏れる日差しと水面からの涼しさがとても気持ちよく、適度な運動となりました。自然が造りだした渓谷の美しさにも圧倒されました。

ウォーキング中には、参加者の方といろいろ話すことができました。邑南町で暮らすことの不便さについて尋ねると、「車に乗れるから移動は困らないし、特に不便なことなんてないわ。」という答えがすぐに返ってきたので驚きました。私は普段の生活と比べて、コンビニや店が近くになかったりすることに不便さを感じていたので、この答えは予想すらしていないものでした。判断の物差しが人によって異なるのは当然ですが、生活環境によっても大きく変わってくることに気づかされました。



## 5. 地域への提案

### ・HPや観光案内パンフレットの充実

邑南町の魅力である、自然の美しさ、食べ物の美味しさや人の温かさは、邑南町に来れば感じてもらえると思います。しかし、邑南町はガイド本ではあまり紹介されておらず、まず観光に来てもらうことが難しいように思います。そこで、邑南町のHPやパンフレットを通して、邑南町を知った人に興味を持ってもらい、観光のきっかけを作ることが大切だと考えます。

まず、邑南町を知らない人、まだ訪れたことのない人に対しては、邑南町のイベント、観光地や四季折々の風景の写真をHPに掲載し、邑南町のイメージを伝えます。また、観光のモデルコースを紹介し、



邑南町に来て何を体験できるのか、何を見ることができるのかという情報を発信し、HPの閲覧者に具体的な観光プランをイメージしてもらいます。邑南町を具体的にイメージすることが出来れば、不安がなくなり観光地として選びやすくなると思います。

そして、邑南町として一冊のパンフレットを作り、観光客が多く立ち寄る場所に設置します。パンフレットは、どちらかといえば、邑南町に来た人や隣接都市に来ている人を対象にします。現在は、観光パンフレットが観光地ごとに存在しており、まとまった情報を載せているものが少なく、場所によって置かれているパンフレットも様々です。そこで、一冊のまとまった観光案内パンフレットを作り、観光客が観光しやすいようにして、邑南町での観光を充実したものに手助けをします。また、情報をまとめることによって、当初の目的地以外の場所にも興味を持ってもらえるようにします。

### ・新たな観光資源の発掘

邑南町の魅力を強化していくために、現在の観光資源に加えて、新たな観光資源を発掘していくことも必要だと思います。そして、新たな観光資源は、邑南町のことをよく知っている地域住民からの公募で集めます。その理由は、地域の人たちが自分たちの町の魅力を見つめ直すきっかけにもなると思うからです。また、地域の人にとって大事な場所が観光資源となることは素敵なことだと思うからです。その一方で、地域の人たちが見過ごしてしまった魅力をすくいあげるために、観光客など地域の外からの意見も積極的に取り入れていく必要があると思います。

また、冬場はスキー客が多く訪れるようですが、夏場には観光の目玉となるものが不足しているように思います。邑南町の星空は素晴らしいものだったので、夏の流星群と絡めながらツアーなどを企画するのいいかもしれません。自転車で町内を回るというのも気持ちいいと思うので、レンタサイクルを始めるのもいいと思います。山道が多いですが、若い人であればあまり苦にならないでしょうし、自転車で走りやすい道を中心としたサイクリングマップを作れば、より町内を楽しく巡ることができると思います。

## 6. 感想

今まで地方が抱える問題について、机上の知識としては知っていましたが、邑南町で実際に農家の方から話を聴いたり、自分で体験してみたりする中で、自分が考えていた以上に深刻な問題を抱えているという現状を知りました。過疎などの問題が深刻であり、相互に関連し合っているため、根本的な解決策を考えようとしても途方に暮れ、考えが行き詰ってもどかしい気持ちになったりしました。しかし、邑南町の人たちは地域の現在・未来のために明るく頑張っており、そんな姿を見ると私のほうが励まされるほどでした。地域の現状を知る中で、実際に地域の中で元気に頑張っている人たちに出会えたことが、とても嬉しかったです。

また、地域の魅力を考える上で、地域の外部からの視点を取り入れることの大切さについても知ることができました。地域に暮らす人たちには当たり前になってしまい、見過ごされていることが、その地域外の人にとっては魅力的に映ることが多いことを知りました。地域振興というのはその地域の人々の力だけで実現させるものではなく、地域の枠を越えた交流の成果として実現されるものだと考えるようになりました。

このように、邑南町では自分の考えを深めることができ、新たな気づきも多く、本当に充実した素晴らしい3週間を過ごすことができました。本当にありがとうございました！

